



東北大学

2011年11月1日

報道機関 各位

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

第7回バイオ PIXE 国際シンポジウムの開催
(人、動物、植物の健康維持のために、いかに PIXE 法が応用できるか)

<概要>

「人、動物、植物の健康維持のために、いかに PIXE 法が応用できるか」をテーマに、10月30日より11月4日までの6日間、仙台、東北大学片平キャンパスのさくらホールで「バイオ PIXE 国際シンポジウム」が開催されている。本シンポジウムは、加速器を用いた超微量元素分析法の医学、生命科学の研究および環境汚染検査への応用を課題として、3年おきに開催している。第1回は、仙台で1992年に開催され、本シンポジウムが初めて組織された。それ以降、北京、京都、メキシコシティ、ウェリントン、リッチランドで開催され、19年後に仙台に戻ってきた。

国際シンポジウムがさくらホールで開催されるのは、震災後初めてである。本シンポジウムは、震災後、その開催が再検討されたが、現在の東北地方の復旧を国内外に知らせることが重要であるとの考えで、予定通りに開催することとした。本シンポジウムに、米国、ブラジル、EUなど14カ国から32名、国内からは90名、合計122名が参加している。

シンポジウムは、31日に、石井慶造シンポジウム開催委員長（サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長、工学研究科教授）の開催宣言の後、井上明久東北大学総長の歓迎挨拶で始まった。井上総長は、震災の被害状況を知らせるとともに、東北大学は、宮城県、福島市の生活用水、農産物、水産物の放射能汚染検査および汚染土壌の除染活動を

積極的に行っている旨を紹介した。

井上総長の挨拶を受けて、石井開催委員長より、宮城県および福島市の水道水、農産物はいずれも、1ベクレル/kg以下、果物、牛肉および魚もほとんどが10ベクレル/kg以下で、自然放射能のレベルより極めて低く、非常に安心して食べられること、また、どうして、このように放射能が低いかの理由として粘土の放射性セシウムの吸着性などによるものであることを説明し、「東北地方で生産される食物は非常に安全である」を参加者にアピールした。これを受けて、EUの参加者から、チェルノヴィリの原発事故との比較と違いなどが指摘され、ほとんどの参加者の安心が得られた。

日時：10月30日～11月4日 9:00～17:00

場所：東北大学片平キャンパス さくらホール

主催：東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター



シンポジウムの看板



井上総長の挨拶

Examination and decontamination of radioactive contamination due to Fukushima first nuclear power plant accidents

~Foods produced in the northeastern Japan are very safe.~



2011 Bio-PIXE International Symposium

Sendai, Japan
31th October 2011



Keizo ISHII

Tohoku University, Sendai Japan



石井開催委員長による食の安全の説明

(お問い合わせ先)

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

担当：石井慶造、山崎浩道

電話番号：022-795-7791